

すばらしいスタート

チューリッヒ日本人学校
学校便の

希望



平成30年4月20日発行
第2号
発行人 校長 東 明彦

チューリッヒ日本人学校の始業式から2週間が経とうとしています。この間、始業式・身体測定・前期J S開始・ゼクセ集会と活動が続き、15日(日)には、チューリッヒの街でゼクセロイテンキンダーパレードが行われました。

天気予報とは少し違って雲が多く心配されましたが、雨が降ることもなく1時間余りのキンダーパレードは盛会のうちに終了しました。

今年は会場付近の工事の関係でパレードのコースが変わり、待ち時間が長くなって児童生徒たちには申し訳なかったのですが、パレードが始まると、事前のゼクセ集会で説明を聞いていたとおり、用意した飴を丁寧に手渡しし、笑顔で太鼓の演奏やパレードができたと思います。疲れもあったでしょうが、どの児童生徒も最後まで本当によくがんばってくれたと感心しました。いろいろな国の子どもたちがパレードには参加していましたが、日本の代表として、太鼓の演奏や法被姿、丁寧な飴の配り方などに観客からも笑顔の反応がたくさんありました。「ありがとう」「こんにちは」といった日本語を話してくれる観客もいました。チューリッヒ日本人学校全日制と補習授業校、それに卒業生も手伝ってくれたことで、まとまりのよい異文化活動となりました。

この2週間の毎日の授業も、大変に落ち着いた態度で学習を深めている姿が印象的でした。中学部では早速に学力テストがありましたが、これまでに学習した内容の習熟度は大変に高いものがあります。ねらいをしっかりと意識して授業を受けることと、さまざまな表現の方法、例えば発表・ディスカッション・朗読・文章を書くことなどをとおして、高い学習内容の定着ができているのだと思います。

どの活動を見ても、すばらしいスタートが切れたと感じています。今後も、毎日の授業・自主学习・J Sタイムの活動などを大切にしながら、より深く主体的な学びが深まっていくよう、教職員一同、自覚をもって指導していきたいと考えています。

学校点描

ゼクセロイテンキンダーパレードの様子



左は2年生の体育の授業
下は、校庭に咲く西洋タンポポ



4月25日(水)・26日(木)は 学級懇談会です

4月20日(金)の1学期情報交流会に続き、第3週には2日間の学級懇談会を予定しています。保護者の皆さまと直接に学級担任がお話をする事で、学習面や健康面、生活面でのお子様たちの様子についてお互いに理解を深めていきたいと考えています。

児童生徒たちは、学校と家庭では、また違った様子を表すこともあります。私たち教職員はできるだけ児童生徒たちを多面的に理解し、その個性やよさをのばしていきたいと考えています。

また、学校へのご要望やご意見も伺いたいと考えています。懇談会ではすぐにお答えできない内容がある場合は、少し時間をいただき、教職員全体で協議し、共通理解をしたうえで回答させていただく場合もありますので、どうかご理解ください。日程については、案内と各担任からの通信をご確認ください。よろしくお願いいたします。

今年度の
「学校教育目標」

学校教育目標
自ら学び、楽しみ、他の人を思いやる豊かな心で、国際社会をたくましく生き抜く。
創造性にあふれる子どもの育成。

日本田舎法、**教育基本法**、**学校教育法**、**文部科学省**、**海外子女教育財団**

学校運営に関わる機関
学校運営委員会
チューリッヒ日本人会
チューリッヒ日本商工会
チューリッヒ日本人学校保護者会

チューリッヒ日本人学校
日本語補習校

研修専攻校
ジュネーブ補習校
各現地校

目指す子ども像
・すすんで学習にはげむ子
・思いやりのある心豊かな子
・明るくたくましい心身を目指す子
・スイスの友と学び合う子

目指す教師像
・授業を大切に工夫改善を怠らぬ教師
・子どもたちとの心通い合う生徒指導をめざす教師
・常に安全、安心な環境に気を配る教師
・感謝の気持ちを忘れず保護者等と協働する教師

今年度の重点目標

〈1〉学力の向上 ・少人数のアクティブラーニングをととして、思考力・判断力・表現力を引き出す授業の展開

〈2〉心の教育の推進 ・教育活動全体で道徳教育・人権教育を行い、日本人としてのアイデンティティを培う

〈3〉進路指導の充実 ・学年全体を通じたキャリア教育を実施し、目標を明確にした進路を実現する

〈4〉開かれた学校 ・オープンドアと日常的な教育相談を生かし、保護者とともに協働する開かれた学校を創造する

〈5〉児童生徒数の確保 ・魅力ある学校づくりに努め、各関係機関への積極的な広報活動を推進する

基本理念
スイスの恵まれた教育環境を生かし、日本人としての誇りを育てるとともに、豊かな国際感覚を養い、児童生徒一人ひとりの個性・能力の伸長を図り、「未来に生きてはたらく力」をばぐくむ教育の創造に努める。

平成30年（2018年）度 始業式 校長あいさつ

平成30年（2018年）度の学校経営方針に合わせて、「学校教育目標」と「今年度の重点目標を」左のようにまとめました。少し見にくい印刷になりますが、提示いたします。

これまで、A4用紙で5枚にわたる内容をホームページにも掲載していましたが、現時点でのチューリッヒ日本人学校のよいところと課題を整理し、各種の課題教育に取り組んでいくのはもちろんですが、今年度、特に取り組んでいくべき内容を「今年度の重点目標」として掲げています。また、目指す子ども像とともに、私たちが目指す教師像についても明示することで、私たちの自覚を促す意味も込めています。

昨年度までの学校経営方針を継承しながら、今年度に取り組むべきことを明らかにしたいと考え、このように表してみました。



きちんとそろえられた靴。図書室前で。

全校児童・生徒11名のみなさん、おはようございます。
チューリッヒ日本人学校は30年以上の歴史を持ち、ここで学んだ多くの人たちはそれぞれに進む道でもとても活躍されていると聞いています。私はそんなチューリッヒ日本人学校で働くことができるのを誇りに思うとともに、うれしくなりません。
2018年度は11名という人数ですが、私は11人しかいないと思っていません。11人も素晴らしい個性と可能性のかたまりのような子どもたちが、この学校で一生懸命に学ぼうとしている、そのように感じています。みなさん一人ひとりの顔を見ていると、とてもきれいに澄んだ、そして輝く瞳をしています。11名のみなさんと、12名の先生たちがいっしょになって、23人だからこその学びを創っていきましょう。「チームチューリッヒ」が一つになって、自分から進んで毎日の勉強をし、日本語・外国語を身につけ、スポーツや児童・生徒会活動、運動会・学習発表会等の活動を通して、日本やスイスの文化を体全体で受けとめ、「いろいろな角度から物事を考える力」をつけていきましょう。私は今年62歳ですが、今はハラハラドキドキ、そしてわくわくしていて、私の体と心全体で毎日の出来事を吸収しようとしています。
ドイツ出身の詩人、サミュエル・ウルマン（1840年～1924年）の「青春」という有名な詩の一節に
青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ
優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦（きょうだ）《臆病さと弱い心》を却（しりぞ）ける勇猛心安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ（岡田義夫 訳）
というのがあります。私は自分自身に言い聞かせながら、みなさんといっしょに毎日の学びを大切にしていきたいと思っています。今日できる最高の学びを重ねていきましょう。
（※ウルマンの詩は、分かりやすい言葉にして紹介しました。）